

事業報告

平成29年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ②

平成29年10月14日(土)～15日(日)

【対象】幼児と保護者

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用して、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供するとともに、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10月14日(土)	10:40～11:00 受付	開会式	昼食	ミクロ オリエンテーリング ネイチャービンゴ				タベのつどい 入浴	夕食	キャンプファイヤー	(親)ワークシ ョップ (子)絵 本読み 聞かせ		就寝
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14				
10月15日(日)	起床	朝のつどい 朝食	荷物整理 清掃確認	親子運動遊び		親子で料理に 挑戦 ・カレーライス ・鶏の手羽先		閉会式	14:20 解散				

～参加者～

12家族(大人:15名, 幼児:15名) 計:30名

(長野県, 愛知県, 東京都)



～活動トピックス～

活動Ⅰ ミクロアドベンチャー&ネイチャービンゴ

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

前日の雨天で野外での活動ができなかったため、室内でのミクロアドベンチャーを実施した。建物内のある小さな一部分を写真に写してある見本を見て、その場所を探して同じ写真を撮影するという活動。大人の考えとは裏腹に、子供達はいとも簡単に答えを見つけていた。その後、天候が回復したので、野外でネイチャービンゴを体験した。



活動Ⅱ キャンプファイヤー

講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏・ボランティア

天候が回復したため、参加者の皆さんが熱望していたキャンプファイヤーを行うことができた。古屋先生の御指導の下、ボランティアが進行し、親子で歌やゲームを楽しんだ。参加者も職員もボランティアも、みんなの心が一つになった瞬間であった。



活動Ⅲ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：ボランティア

第1回のキャンプで絵本専門士の谷口先生の読み聞かせを学んだボランティアが、この日の読み聞かせを行った。子供達は、絵本に夢中になり、キャンプファイヤーで高揚した気持ちをクールダウンすることができた。

活動Ⅳ ワークショップ（保護者対象）

講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏

「よかったこと探し」と題して親向けのワークショップを行った。キャンプ1日目の中で、我が子の良かった点ともう少しこうしてほしい点という点を付箋に書き出し、一人一人がグループの中で発表した。「他の家族と意見交換ができてよかった」という感想が多かった。



活動Ⅴ 親子運動遊び

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

第1回で松本短期大学名誉教授の柳澤秋孝先生より御指導いただいた内容を復習した。3か月経過して子どもたちの動きがどのように変容したかを保護者に観察してもらった。前回より成長した子供達の姿を見ることができた。

活動Ⅵ 親子で料理に挑戦 メニュー「カレーライス」「手羽先ロースト」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

今回は野外調理の定番である「カレーライス」とダッチオーブンを使った「鶏の手羽先ロースト」に挑戦した。鶏の手羽先は出来上がった瞬間の見た目の豪華さに感動していた。



～参加者の声～

- ・親子ではなかなか体験できないキャンプファイヤーを行うことができて、本当にうれしかった。
- ・マイクロアドベンチャーはシナリオもあり、グループで考えながら行うことができたので楽しかった。施設内でも十分楽しめた。
- ・初めてのダッチオーブン体験が楽しかった。子供が積極的に食器を運んだり調理したりする姿に成長を感じた。

～成果と課題～

- キャンプファイヤーは、ボランティアの活躍により大変好評だった。参加者の皆さんが熱望しているプログラムなので、来年度も最低1回は取り入れるとよい。
- 参加した親子同士の交流が深まってきて、「キャンプ以外で集まる機会があるとよい」という感想があった。第3回でこの機運を高める工夫をしていきたい。
- 前日と当日の天候不順からアドベンチャーハイクを中止したが、参加者の感想でも「やりたかった」という意見が多かったため、ハイクの一部でも行えるとよかった。